

ユニホームについての基本的な考え

日本小学生バレーボール連盟
理事長 工藤 憲
審判委員長 山田 道人

日本小学生バレーボール連盟の根本の考えは、バレーボールを通して子どもたちの健全育成にあります。全てのことがらがこの子どもたちの健全育成を基に行われており、ユニホームの問題も例外ではありません。ユニホームの問題で具体的に言いますと、子どもたちの安全・安心を確保し、正しい価値観を伝えていくという考えに立脚しています。

1. 「ノースリーブ」のユニホームに関して

ノースリーブのユニホームに関して、本連盟では「着用は好ましくない」と伝えております。その理由としては、まず、肌の露出部分を多くすることで擦り傷等の危険が高まります。更に、露出度が多くなることで、これまでも後を絶たない「盗撮」が増えていくのではないかと危惧もあります。

更に、小学生段階ではノースリーブにすることによりパフォーマンスが著しく向上するとも考えていません。

以上のことから、本連盟では「好ましくない」と通達しております。

2. ユニホームの上着をパンツの上に出すことについて

このことについては、本連盟では認めておりません。つまり、しっかりとパンツの中に入れるように指導しています。

理由としては、小学生チームのユニホームは多くがチーム備品であり選手の体にフィットしているものではありません。そのようなユニホームをパンツの外に出してプレイすることは見た目もよくありませんし、パフォーマンスにも影響することが予想されます。また、体にフィットしているものであると逆にジャンプなどのたびにおへそ等の肌が露出したりし、ノースリーブの場合と同様のリスクが生じると考えております。

3. 背番号等を地の色と対象に

このことは、ルールブックに明記されているのですが、近年、デザイン重視なのでしょうかなかなか背番号等が見えにくいものが増えてきています。

全ての子どもたちや関係する大人がみな同じような視力ではないということです。

緑と黄色が識別しにくい子どもたちもいますし、大人は年齢によってその差が大きくなると思います。おしゃれではなく、誰もが見やすいユニホームを着用するよう、本連盟では指導しています。

4. その他

原則はルールに則って決めています。子どもの体を守るサポーター以外の不必要なものを身につけることは禁止しています。

以上が小学生連盟としてのユニホームに関しての基本的な考えです。